

研究課題名：

多包虫由来宿主血中循環細胞フリーDNA を標的としたエキノコックス症検査法の信頼性評価

研究の目的と方法：

北海道では、風土病とも言えるエキノコックス症が流行しています。寄生虫であるエキノコックスは北海道の場合、キタキツネと野ねずみの間で感染サイクルを形成しており、成熟した成虫でつくられる卵がキツネの糞と一緒に野外に放出されます。その卵が何かの拍子に口から入るとヒトも感染します。放置すると死に至る場合もありますが、今のところ、根治的治療法は外科的手術により病巣を切除するしかありません。よって、早期診断・早期治療がとても重要です。北海道では、ヒトの検査システムを構築し、当所がその検査を担っています。

ヒトの組織内に寄生するエキノコックスによって引き起こされる疾患の検査は、免疫応答によって生じた血中の特異抗体を検出することによる「間接的」な手法で行われています。この場合、潜伏期間が長く感染初期の自覚症状が乏しいことや抗体量が検出限界を超えるまでに長期を要することから発見が遅れる可能性があること、交差反応や非特異反応にも注意を払う必要があるなど、早期かつ正確な判定のためには課題が残っています。そこで、本研究では、寄生虫由来の循環細胞フリーDNA を新規バイオマーカーとしたりリアルタイム PCR 法による検査精度の評価を行います。これにより、エキノコックスを「直接的」に検出する診断法の確立を目指します。そのためには、実際の患者さんの検体を用いた調査研究が不可欠となりますので、検査用試料の残りを活用させていただきたいと考えています。

得られた研究の成果を報告書、学術雑誌、学会などへの発表に使用場合がありますが、お名前や生年月日など個人が特定できるような情報が公開されることは一切ありません。また、対象となる患者様への不利益や介入もありません。

北海道に住む皆様の安全・安心に寄与できるよう、感染症対策に取り組んでまいりますので、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

研究の対象者及び対象期間：

2007～2026 年の間に北海道立衛生研究所にエキノコックス症の検査目的のために検査用試料が搬入された方を対象といたします。

研究に利用する試料・情報：

エキノコックス症の検査のために北海道立衛生研究所に搬入された検査用試料の残りを利用します。個人の特定に繋がらない形で病原体情報、疫学情報、診療情報（発症日、試料採取日）等を解析に用います。それらを共同研究機関との間で共有する場合にも個人が特定されないよう厳格に匿名化いたします。

研究機関:

北海道立衛生研究所、宮崎大学農学部獣医学科との共同研究

試料・情報の管理について責任を有する者:

統括責任者: 感染症センター	感染症部	部長 山野 公明
試料の管理: 感染症部	医動物グループ	主査 後藤 明子
情報の管理: 感染症部	医動物グループ	主査 後藤 明子

利益相反について:

本調査研究に関連して、開示すべき利益相反状態にある企業等はありません。

お問い合わせ先:

＜研究全般について＞

北海道立衛生研究所

山野 公明

〒060-0819 北海道札幌市北区北 19 条西 12 丁目

TEL:011-747-2760 FAX:011-736-9476

＜エキノコックス症検査について＞

北海道立衛生研究所

後藤 明子

〒060-0819 北海道札幌市北区北 19 条西 12 丁目

TEL:011-747-2768 FAX:011-736-9476